

千草会

題字 原あやめ

追悼 学院長鈴木正治先生

千草会名誉会長
理事長 原あやめ

風薫る新緑の美しい五月、連休も終る頃、学院長鈴木正治先生の突然の訃報に接し、一瞬、耳を疑い、目の前の暗くなるのを覚えませんでした。平素、健康には充分留意されていると聞いておりましたが。

先生は学院長として、山脇の伝統的な校風を伝えながら、現在の美術コースの充実を図

っておられたところで、「道半ば」の想いであったことと、大変、残念に思います。先生には昭和40年から出講して頂きました。当時、服飾コースのほかに、それまでの社会状況を見据えて新設したリビンググアート科で、そのリビンググアート科の趣旨である「現代の生活に即した幅広い知識と豊かな感性を持つ女性の育成」を目指していることを踏まえて講義され、近年は学院長として、学院に長く力を注いで頂きましたことに感謝いたしております。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成17年6月30日 記

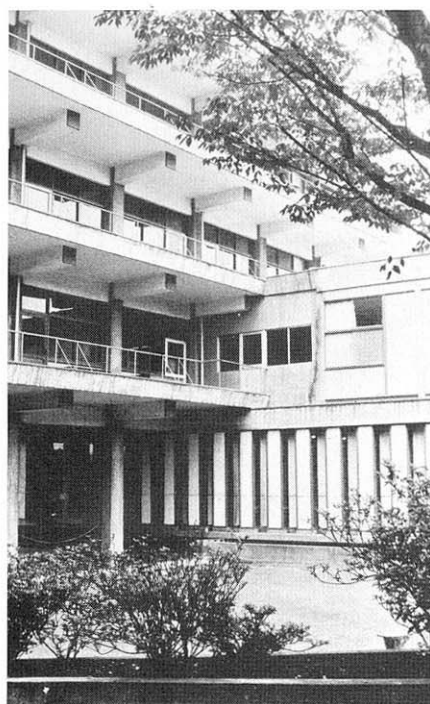
■目次

- 追悼 学院長鈴木正治先生…………… 1頁
- 心に残る鈴木先生の授業
山脇ギャラリー展示スケジュール…………… 2頁
- 学院長就任ごあいさつ／千草会だより
千草会賞／千草会費…………… 3頁
- 卒業生だより…………… 4頁
- 卒業生ニュース…………… 5頁
- 在校生の作品介绍／学院だより… 6・7頁
- 研修旅行／学事課より…………… 8頁
- オフィスから・アトリエから…………… 9頁
- 山脇展のお知らせ／専門学校美術展
講師・職員移動報告／千草会より…………… 10頁



17

年号



市ヶ谷旧校舎(ピロティ様式)
中庭西側より望む
(昭和31年～昭和47年)

心に残る鈴木先生の授業

リビングアート科元主任
清水清子

原あやめ先生は、かねてより、これからの女性に必要な生活の知恵として懸案されたリビングアート科を昭和40年に新設されました。「住居」の課題は、建築界の第一人者吉村順三先生が担当主任をされて、常時の指導にはお弟子さんが当りました。

製図・プレゼンテーションを橋本嘉夫先生、住居を鈴木正治先生と二人の先生が担当され、内容はプランと製図、実例に基づく構成、資料のサンプルの適題、歴史などと、充実していました。学生は後に家庭に入り、様々な形に活かして、それは有意義に実り多きを得ております。鈴木先生は心に残る授業の思い出として、「家を建てるには、まず地を慣らし、土台の石を置き、柱を立て、竹の枠組をして壁土を塗って、屋根を葺く」基本的な家造り「一庵」のお話をされ、黒板には順々に、お得意の挿し絵が描かれます。その他に生活百般も授業に添えて教えていらつしやして、役に立ちました。例えば、食器一つの話でも、「京の薄手物」と「関東の鯨皿の様な分厚い物」は一緒に扱ってはいけません。理由は薄手の物に「ひび」が入って、いつの間にか、欠けやすくなるので注意しない。煮物・漬け物は、その器や盛り方で目を爽ませます。又、ある時は「急須と土瓶」の扱いは異

り、その仕種は日本特有な美と言えます。先生の大きな手の指先がシナヤカに反って、そのお手元に、熱心な眼差しを向ける学生は、美味しいお茶を連想した事でしょう。

主題の住居の歴史では、昔、三内に集落のあった理由について、「津軽海岸の地域には暖流が流れていて耕作物が豊饒に出来、山や海の獲物も豊富で、住み良い地であった」と説明。いずれの時代も人々は転々と環境の取り込み方に知恵を絞る創意工夫による見事な生活文化を生み出している。等々、数限り無く貴重な授業でした。夏は年毎にゼミナールを企画されて、古い建物の多い京都・奈良、参考となる山深い草庵の歴史や山の辺の道の陵と天皇の政治など、西から東へと学ぶ事の多い貴重な旅で、また大商家旧屋敷とか、飛騨の高山、加賀友禅、九谷の窯など、めったに見る事の出来ない日本の美術の奥深い面を廻るゼミナールでした。

この三月に、学院で久しぶりにお会いした折先生がお話になるには、「戦争によって、貴重な日本の建物の大半は灰となりました。何せ木が主体だけに、建物はマッチ一本で呆気なくボウです。加えて爆弾が雨あられではたまりません。今はその建て直した物に動しんでは来たりものの不調和で都市の個性を失った感があります。ナァ本物が少なくなりすね」と、先生はしみじみと話されて、お別れの折には「私は豊島郡落合村の生まれでして、この頃のほかに詳しい江戸時代を重ねて仰しやったことは、何とも懐かしく、そのお声が耳に残りました。謹み先生の御冥福をお祈りいたします。

学院長就任のあいさつ



学院長
細田直孝先生

このたび縁あって、故鈴木正治先生の後を受けて学院長に選任され、現在その重責をひしひしと感じております。

縁あってと申しますのも、本学院とのかかわりは、遙か以前に創立者の山脇敏子先生との出会いから始まったからです。山脇先生のバリエーションの着物のカタログのフランス語版を作るお手伝いをしたのがきっかけで、服飾フランス語の授業を受け持つことになりました。そして、前後十五年ほど本学院の教壇に立つことになりました。また五年前から理事会に加わっており、学校業務の運営と統括の任に当たるとは、わたしには新しい分野の仕事にはかなりませぬ。ささいい、山脇先生の後を継がれた原先生のもとで、すでに時代の変化に適応した学院の新しい路線が敷かれ、各学科長の先生を中心として多様な講師陣も揃えられております。今後とも、本学院の少数教育の伝統のよさを生かしながら、事務局スタッフの努力にも支えられ、また多くの卒業生の皆さんの声援を背後に感じとりながら、学院の発展に微力を尽くすことができたいと願っております。

山脇ギャラリー展示スケジュール

学院・千草会関係

8月2日～8月8日「Casimir」(学院)	8月2日～8月8日「Casimir」(学院)
8月10日～8月30日「学生作品展」(学院)	8月10日～8月30日「学生作品展」(学院)
8月13日～8月30日「日常の中の時間感覚」(学院)	8月13日～8月30日「日常の中の時間感覚」(学院)
10月1日～10月2日「山脇展」(学院)	10月1日～10月2日「山脇展」(学院)
10月19日～10月25日「MARIE作品展」(千草会)	10月19日～10月25日「MARIE作品展」(千草会)
12月12日～12月17日「アネハネハ楽園」(学院)	12月12日～12月17日「アネハネハ楽園」(学院)
平成18年	平成18年
2月1日～2月10日「ブルー展」(千草会)	2月1日～2月10日「ブルー展」(千草会)
2月18日～2月19日「空業・進級制作展」(学院)	2月18日～2月19日「空業・進級制作展」(学院)

●昨年度、ギャラリーに足を運んで頂いた総来場者数は、一万人を優に越えました。年々、来場者数は増え、山脇ギャラリーの存在も徐々に世の中へ広がってきているようです。訪れた人々からは、好ロケーションでありながら、静かで落ち着いた「明るく開放的で入りやすい」など、好評の声を沢山頂いています。今後も會員の方々のご活躍を発表し、感性や可能性を発信できる場でありたいと願っております。ぜひご利用下さい。申し込みは担当まで。山脇ギャラリー委員 篠原 一郎(学内委員)

千草会だより

委員 佐藤京子 (旧姓北想)

先日まで、お元気でいらつしやいました学院長鈴木正治先生が急逝されたとの報に、大変驚きました。先生はIA科の講義のみならず、大懇話会にも親しくご出席頂いておりました。長い間、ありがとうございました。

先生のご冥福をお祈り申し上げます。うつつうしい梅雨の日々、今年も各地での大雨情報が届きましたが、會員の皆様には、お変わりなく、お過ごしでしょうか。名譽会長原あやめ先生は、この五月で九四歳になられ、お健やかに過ごして下さる事、私達も心より嬉しく存じております。

昭和24年から九年間、学生、助手、教師として、お世話になりました。当時の服飾界は花盛り、山脇敏子先生もお元気に活躍でした。パリからアイオールやシャネル、カルダン、サンローランと若手の台頭に華やかな活気があり、それに少しも近づきたい想いで、下着からジャケット・ドレスまで仕立てたものでした。その当時、フランス語の講師として出講しておられました細田直孝先生が、このたび学院長に就任されるとの事、学院を存じの先生の着任、嬉しく存じます。

駿河台から市ヶ谷へ、ピロティ様式の旧校舎の芝生、そして現校舎の中庭、山脇らしい素敵なその空間は、原あやめ先生の「心にゆとり」との想いが若い人を育てて来たのだと思います。半世紀も前から、山脇と夢を共にした皆様、会報を見て若き日を思い出して下さい。

●10月19日から山中政江さん(洋服師範科卒)の皮革作品展(バッグ類)ぜひお出かけ下さい。

●千草会費の会計報告

入学時に取って頂きました千草会(同窓会)の終身会費について、誌上で会計報告をいたします。

平成16年度 千草会費 収支	
支出	収入
千草会報 発行費.....768,238	千草会費 2,130,000
行事費 同窓会 他.....0	利子 + 54
千草会費.....92,516	計 2,130,054
千草会員 展示会 お祝い.....33,605	平成16年度収入
通信費.....44,245	収入 2,130,054
委員会運営費.....747,596	支出 - 1,739,980
義援金.....53,780	計 390,074
計 1,739,980	今年度の同窓会費の残金

今年度の残金は次年度に同窓会費として繰り越します。

●千草会賞について

昨年度より、本学院の同窓会である千草会から、卒業する各科の優等賞に準ずる優れた方に、名誉会長原あやめ先生より、褒賞状と記念品が授与されることになりました。

受賞された方々には、記念品を楽しんで頂き、何らかの糧に、と思っております。

平成16年度 受賞者	
VD科 浅原 裕介	「マルセル・デュシャン」
DD科 五十嵐央美子	「ザ・ウォーキー」
ID科 深澤由紀子	「アル・ヌーボー」
JA科 尾関 静香	「マーチ・ロスコ」
	「20世紀のデザイン」
	「クラシック モダン」
	「ジュエリー デザイン」
	「イン シンパシ」

「夢を持ちつづけて…」



コスチュームデザイナー科
昭和45年卒
洋裁科 助手
溝呂木 道恵

千草会からお話を頂き、とても嬉しく懐かし
く、先生方や友達、助手をさせて頂いた頃の生
徒さん達の顔が走馬灯のように浮かんでまいり
ました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

山脇を退職後、やはり服飾の仕事がしたくて
イタリーのプレタポルテの販売を3年、その後
フランスのプレタのバイヤー兼販売を約16年致
しました。その間はほぼフランスやイタリー
に仕事で行き、刺激的な日々を過ごす事が出来
ました。その間には失敗はもとより困難におつ
かつた事も数限りなくあり、多くの事を沢山学
びました。その中で私が服を選ぶという職業の
スタートに立ちたと自覚した出来事があります。

それは出張中パリの事務所「これからメー
カーの方が服を持つてくるので、日本で売れる
か見て下さい」という話でした。この日パリは
大雪で車は動かず、二人で大きな荷物を抱え、
汗ダクで歩いて運んできました。服をみせても
らい私は言葉につまり、何と言ったものかと困
惑、「この服は日本で販売するのはとても無理」
と思ったからです。ですがこの大雪の中、大変

な思いをして運んできたのに…と悪い悩んでい
る時、事務所のフランス人女性に「YES or N
O!」と強く聞かれ、勢いに押され「NO!」
と答えてしまいました。その女性は「ウン」と
頷き、彼等に「荷物をたんで帰って下さい」
と言いつつ、その場をはなれました。なんと冷
たい言い方なのかと胸を刺される思いでしたが、
その時ビジネスの厳しさを知り、日本人的発想
の曖昧さを思い知らされました。買付の場合、
常に服を見た瞬間に判断を迫られ、大きな責任
を担わされているのだと痛感します。たえず感
性をみがき、アンテナを張っていないければなら
ないと、意識してきましたが、反省点も多くあ
り、その最もたるものが言葉です。不十分であ
った為、より良いコミュニケーションがとれな
かったと残念に思っています。そんな中いつの
頃から自分の店を持ちたいと思ひ、希望や願
いは強い意志を持ち努力をすれば叶うものによ
うで、10年程前青山に小さな店を構えることが
出来、今日に到っております。

「イラストレーター」



ビジュアルデザイン科
平成14年卒
青木 健太郎

「初めまして、イラストレーターの青木健太郎
です。」と言っても、まだまだ、それだけで生活

できる程売れてはいませんが、アルバイトをしな
がらです。どうしたらイラストレーターになれる
のですか?」などと聞かれることがありますが、
それが極端な話し、自分でイラストレータ
ーだと思えばイラストレーターなのです。

けれどそれは簡単そうではないのです。
「ここまで本気でやるのか」ということが一
番大事なことだと思っています。あるイラスト
レーターの方が、「プロとアマの違ひはなん
ですか?」と聞かれて、こう話していました。
「命を賭けているか賭けていないか。ギャグの
ような答えですが、この答えにはイラストレ
ーターの心得の本質が込められていると思いま
す。もし在校生の中に、「イラストレーターにな
りたい、イラストレーターにどうしたらなるの?」
と思う方がいたら、参考にして下さい。僕も卒
業した当時は何をしてもいかわかりません。し
た。駆け出しのイラストレーターに必要なこと
は、まず自分の存在を知ってもらう為に、ネッ
トをつなぎ、ホームページをつくり、活動拠
点としました。自分の作品ファイルを作って、様
々な編集部に連絡をとったり、ファイルを送つ
たり、でもこれは基本的な売り込みの仕方、
やり方にルールはないと思います。ギャラリー
で展示したい、好きな会社に直接アタックして
みるのも良いと思います。とにかく学生時代は
色々な画材で色々なタッチで表現してみ、
そうすれば自然に自分にあったスタイルが見つ
かるのではないのでしょうか。どの授業もまじめ
に受け、がんばって欲しいと思います。

卒業生ニュース

2005年 1月 北欧刺繍展 (ハーダンガ刺繍)

山脇ギャラリー

広岡均子 手芸科 昭和46年卒



ハーダンガ刺繍の原点で
あるドロンワークの作品
(ノルウェーの民族衣装)

今年、ノルウェーと日本の修好100年。2002年から2003年にかけて、ノルウェー
のハーダンガ民族博物館、ベルゲンのホーダ美術館で私達の作品を展示して頂く機会
を得ました。その時、日本では未だ本場のハーダンガ刺繍の作品が紹介されていない
ことを知りました。大使館から今回の展示に協賛して頂き、母校の素敵なギャラリー
で開催でき、大変嬉しく思っています。

33年前、ノルウェーの田舎のクラフトワークの学校へ単身留学しました。その時、
山脇の学生時代、手芸に関していろいろ修得できた事が私の自信でもありましたが、
そこで、先入観に縛られず「創る」ということの「楽しさ」を学ぶことが出来、今の
私の大きな活力になっているように思います。

今回の作品展で、一番知って欲しかった事は、手芸には沢山の技法があることで、
それぞれの人の感性を、手芸という形で表現することで、もっと楽しく、その人なり
の世界を作って行けるのでは、と思っています。手芸は自分も気づかなかったような
新しい自分の世界を発見し、新しい喜びを分かち合えるコミュニケーションの手段、
という私の思いを、ますます確信することの出来た展示会だったと、一人思っており
ます。沢山の方々に見て頂き、多くの方に助けて頂きましたことに感謝いたします。

2005年 第30回 インターナショナル パールデザイン コンテスト 銅賞受賞 日本真珠振興会主催

和気佐知子 ジュエリーアート科 平成11年卒

卒業後、すぐにジュエリーメーカーの工房に勤務しましたが、現在は、照明デザイ
ン事務所の総務スタッフとして勤務しながら制作活動を続けています。

その中で一つ決めていることは、「必ずコンペには出し続ける」ということです。一
人で制作活動を続けることは大変なことだと感じています。期限もなく、色々日々の
生活をしていると誘惑も多く……。コンペは、それで収入こそ得られるわけではあり
ませんが、私は、それを指標としています。その結果は出しても出しても、入選でき
ず何年かが過ぎました。今年、やっと一つの賞を貰えたので大変嬉しかったです。
又賞が得られなくても、出し続けられるのは、仕事も続けているからかもしれません。
照明デザインという仕事を横で見ながら働けるのは、とてもよい刺激です。違う分
野のデザインも、よい勉強になると思っています。とにかく、ポジティブに考えるこ
とを今後も心掛けて行きたいです。



受賞作品
ネックレス
(株)石井幹子デザイン事務所
総務に勤務

2004年 11月 第37回 創作手工芸展 文部科学大臣激励賞受賞

東京都美術館

平岩典子(旧姓鈴木) 手芸科 昭和47年卒



「玲」 受賞作品
この受賞作品は、「凛とした輝きのある女性に…
…」と願う、おばあさまから「れいこ」さんへのプ
レゼントだそうです。

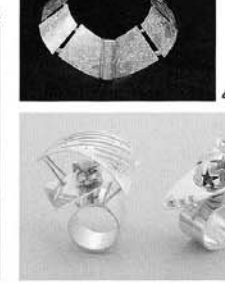
布に「想い」を描いて30年余、日々の暮らしの中の私らしさを
大切にしながら、常に生活と密着した作品を創ってまいりました。
作品のイメージをテーマに、さまざまな素材やテクニックを用い
て表現するファブリック・ワーク。私の作品から「ほろり」と心
に響くものを感じて頂ければ、それが原点です。少しでも私の感
性を受け入れて下さる人々との出会いが、そして「想い」を共有
出来る事が、私のエネルギーの源になっております。

私に与えてもらったファブリック人生は、山脇から始まり、師・
友・家族への感謝と共に、ささやかな小さいことの積み重ねが、
女性として生きて行く上の自信につながっていることを信じて、
これからも、この栄えある賞に恥じないよう創作に励んでいき
たいと思います。 台地…綿プリント、糸…刺繍糸・麻・絹・木綿の糸

在校生の作品紹介



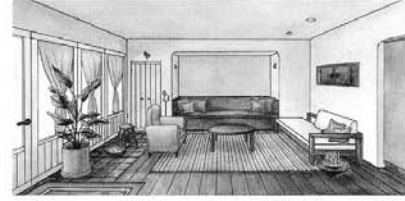
- ←ジュウリーアート科
 1.唐草のペンダントトップ
 2.アルミのオブジェ
 (視覚・触覚に着目して制作したオブジェ)
 3.線のモチーフを活かしたネックレス
 4.面に「彫り」を入れたネックレス
 5.動くリング



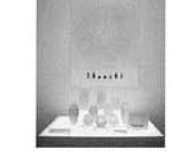
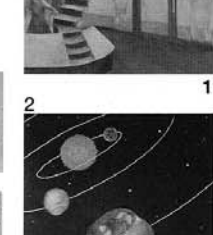
- インテリアデザイン科→
 1.住宅・模型
 2.パース
 (図面に従って雰囲気のある絵を描く)
 3.床と壁
 (インテリアデザイン)
 4.インテリア家具
 5.ユニット家具



在校生の作品紹介



- ビジュアルデザイン科→
 1.想定デッサン
 (イメージの強化)
 2.広告ポスター
 3.装丁デザイン
 4.音楽レーベル
 (グラフィックデザイン
 色彩の表現や構成力を養い、様々な分野を学ぶ)
 5.商品企画デザイン



学院だより

現在ジュウリーアート科には1年生、2年生合せて30名の学生が在籍しております。それぞれ、年齢や国籍、性格も様々ですが、ジュウリーやデザイン、物作りに興味、関心を持ち、学びたいという共通の想いで、日々、互いに刺激しあいながら制作にあたりております。集中講義も含め、様々な専門の講師による専門的な制作技術、技法はもちろん、宝石の装飾に関する歴史や知識など、卒業までの2年間に学ぶ内容は多岐にわたっています。入学当初はパーナーで点火する事も、地金を欲しい形に切る事も、やっとだった学生達が各自のプランやデザインにそって、地金を加工しジュウリー作品を制作できる様になり、課題も一つ一つこなして行くうちに、だんだんと個性や特徴が作品に現れます。そして制作や専門的な事他に、物作りに関する色々な価値感、先生方や友人達との関わりの中で見つけて行きます。普段の授業や、その他見学、課外授業、山協展や卒業制作展などのイベント、学院生活の中で経験する事が実に多く、時間は思いのほか早く過ぎます。しかし、そんな中でも自分の将来のビジョンをしっかり持ち、それに向け努力する姿勢を忘れず、学生生活を充分楽しんで欲しいと思います。そして経験、体験した事、吸収したこと、全てを、それぞれの大切な将来へと、つないでいて欲しいと、願っております。

ジュウリーアート科 助手 任 梨沙

学院だより

一昨年の12月よりビジュアルデザイン科の助手として、先生方のお力を借りながら、日々仕事に励んでおります。私も山脇の学生同様、デザインの専門学校に通い、授業の中で出会った写真術に魅せられて卒業後にプロラボ(プロ用大型写真制作会社)に7年間勤務してまいりました。これまでの仕事での経験を活かし、物を作る楽しさ、製品精度の厳しさを伝え、また自分が働いてみて学生にやっておけば良かった事などの体験を合わせ、後輩(学生)が将来、より自分に合ったジャンルを見つけてくれる様、お手伝いがしたいと思志願させて頂きました。しかしこの1年間を通して、学生の物作りに対するバイタリティーの強さには、逆に教えらるる事の方が多かった様に感じます。また、学生ではなく職員としての立場で自分の足跡を見る事は、本当に貴重な体験をさせて頂いていると思えます。その中で感じた一つとして、デザインの道を目指す決めて入学してくる学生は、誰でも第六感的部分で感じた事を、言葉ではなく絵として表現できるセンスを持っているんだと思います。そこで学校ができる事は、どの様な手法でそれを相手に伝えられるかのコミュニケーション方法を身につける場なのではないかと思えます。これからも学生と共に試行錯誤をしながら、気持ちの繋がり大切に、人間性の幅、知識を広げ、学生と共に磨いていければと考えています。

ビジュアルデザイン科 助手 北山恵美

私が学院を卒業して5年目の昨年春からビジュアルデザイン科助手として学院に戻り、1年が経ちました。私は卒業後、編集プロダクションで3年、フリーイラストレーターとして1年、その他デザイン事務所での短期アルバイトやジュエリー会社でのデザイナーなど様々な仕事に携わってきました。助手の仕事のお話を頂いたのは、ジュエリー会社に入社してちょうど3ヶ月、研修期間が終わる頃でした。「これが人生の分かれ道というものか」と、思いましたが、以前から助手の仕事に興味があった事もあり、思

オフィスから・アトリエから

ジュウリーアート科

平成15年卒

ビジュアルデザイン科

平成16年卒

(株)東宝ダイヤモンド
トーホーキャスト



卒業して2年、月日の流れの早さを感じますが、今の生活が辛くも楽しくも充実しているからだと思います。僕が勤めている会社は宝飾品の加工全般を扱っています、その中のキャスト部門で鑄造の仕事をしていて、やり直しのきかぬ仕事が多とんどで、そのため、依頼者からクレームがくることも少なくありません。こちらに非はなくても頭を下げる悲しいこともあります。自分の腕を上げることが第一で、日々精進です。

お客様の依頼内容や好みも承り、その中で自分の得意な部分を評価して仕事を依頼されるのは、とても嬉しく、もっと腕を上げ、沢山の要求に応えようと思いが湧きます。これからも現状に満足せずにチャレンジし続けていきたいと思っています。

キャスト部門 スタッフ

料崎俊介

私は現在、ニチレイやモスバーガー、なか卯などの食品会社をクライアントにもつ、デザイン会社に勤めています。入社して半年、アシスタントからのスタートで、先輩から少しも吸収することが仕事という毎日です。仕事はハードで大変ですが、自分達が制作に携った広告や、パッケージを街で見かけると、やりがいを感じます。

在学中にも、もっとしておけばよかった事は色々な知識を身につけて、自分の引き出しを沢山作ること。やっておいてよかったのは、授業で配布された資料をファイルしておいた事、その時は必要ないと感じて、就職して見直すと、かなり役に立ちます。デザインを職業にして感じたのは「最後には体力と意志の強さ」の世界で、これが好き！こうなりたい！を探して成長していきたいと思っています。

デザイナー アシスタント

山川裕子

インテリアデザイン科

平成13年卒

デジタルデザイン科

平成16年卒



家具卸売業 販売スタッフ 高橋英司

「ありがとうございます」この言葉に不思議な力のある事を感じ、その大切さを知りました。卒業後、家具の卸売業に携わっています。主に飲食店の家具を扱う、用途に応じた特注家具の製作もしています。お得意様は内装業者、設計事務所と互いにプロ同士のため、常に真剣勝負です。打ち合せ先では営業マン、納品現場では職人として、大変さの中にも充実感を覚えます。ただ、時には失敗も、先方にも迷惑をかけてしまい「温いご指摘ありがとうございます。直ちに対処させていただきます」の言葉と共に速やかに行動、そこで双方のバランスを良い方向に保てる事を知りました。多くの仲間を支えられながら、営業マンとしての交渉や現場での対応を学んでいきたいと思っています。

家具卸売業 販売スタッフ

高橋英司

株式会社
ワンゴジュウゴ

Webデザイナー

加藤朋義

入社して2年目、今はWebチーム・デザイン班のリーダーとして、10件もの案件を同時進行させながら、お客様に喜ばれるものを作るために、研究努力、徹夜も繰り返しています。具体的な業務内容としては、WebやCD-ROM、DVDのデザイン、アニメーション映像の制作、プログラミング、アートディレクション、プランニングなど広範囲に及び、クライアントも、官公庁からミュージシャンまで多岐に渡ります。

激務が続きますが、不思議と辛くありません。おそらく、自分の好きな事をしていてという自覚と、お客様の喜ぶ顔が見られるという2点が、多忙さを乗り切る原動力になっていると思います。学生時代に学んだ事が、自分の好きな事で人に喜ばれる幸福な関係を構築する基盤になっています。

平成17年5月19日・20日

一泊研修旅行 各科別

ビジュアルデザイン科

養老天命反転地 愛・地球博



長久手日本館



養老天命反転地

養老天命反転地で、不思議な世界を体験!! リフレッシュ。愛・地球博では、グループで見学、それぞれが選んだパビリオンへ。皆、見て、感じて、おいしかった一日を満喫。マンモス?



インテリアデザイン科

東寺、河井寛次郎記念館、他



河井寛次郎記念館



心や形を大切に、仕事をしたといわれる河井寛次郎の記念館、東寺、二条城など、その時代に思いを馳せながら見学、その建物の「粋」を見つめる旅でした。

ジュウリーアート科
アンティーク・ミュージアム、八幡野窯



アンティーク・ミュージアム



ポーラ美術館

現代宝飾の原点とも云える「19世紀の宝飾」珍しい石の輝きに魅せられて、技術の高さに目を見張って、見入りました。伊豆高原の風に誘われて八幡野窯へ、やきもの体験。



東寺

平成17年度体験入学等のご案内

就職について

平成17年度の体験・説明会の日程が決定しましたので、ご案内いたします。今年度の体験入学は、全部で14コースを用意しています。例えば、VD科ではマックによるTシャツの絵柄・名刺をデザインします。又、ID科では石と粘土と花を使ったミニガーデンを、JD科では携帯用ストラップを作ります。デザインを学びたい方に、体験入学などへ参加をお勧め下さい。デザインを学びたい方に、体験入学などへ参加をお勧め下さい。

デザイナー業界の雇用環境も回復してまいりましたが、経験者や派遣社員と、採用を競う新卒者に求められる能力は年々高まる一方です。

昨今では、社会における仕事の意義の変化や、雇用形態の多様化が進み、学生も様々な不安や悩みを抱えております。しかし、仕事を通して得られる、労働の楽しみや社会参加の素晴らしさに期待し、就職活動に取り組んで欲しいと思います。

主な就職先(平成十六年三月卒業生)

(有)アイエス、(株)岩崎、(株)エーゼット・プランニング、AOSテクノロジーズ(株)、エスピーエル(株)、(株)エーエックス・フレイズ、菅原木材(株)、川島(株)、(株)クリエイティブハウス、(株)大和ササビ、(株)アール・デザイン、(株)エス、(株)日本建設クラフト、(株)プロントウェブ、(株)びん、(株)エルデザイン、(株)ムラサキ、(株)和心

●千草会員の皆様からも、在校生の就職に関する情報のご提供をお願い申し上げます。

(03-3264-4020) 学事課 就職指導担当

お問い合わせ・お申し込み先 TEL03-3264-4020		
体験入学	学校説明会	イブニング説明会
第1回 7月24日(日)	第1回 5月21日(土)	第1回 8月25日(木)
第2回 7月30日(土)	第2回 6月18日(土)	第2回 10月28日(金)
第3回 8月6日(土)	第3回 7月16日(土)	第3回 11月11日(金)
第4回 8月17日(水)	第4回 8月4日(木)	※要予約
第5回 8月21日(日)	第5回 8月14日(日)	
第6回 8月28日(日)	第6回 8月27日(土)	
第7回 9月11日(日)	第7回 9月17日(土)	
第8回 11月27日(日)	第8回 10月22日(土)	
※要予約	第9回 11月19日(日)	
	第10回 12月10日(土)	
	平成18年	
	第11回 1月21日(土)	
	※要予約	
実施時間 11:30~15:30 (受付11:00)	実施時間(1日2回) 第1回10:30~12:00 第2回13:30~15:00	受付時間 18:00~19:30 (受付17:30)

山脇展のお知らせ

山脇展 10月1日(土) 2日(日) 10時より

今年も学生の自主企画による数々のイベントで盛り上がる学院のビッグイベント山脇展が近づいてまいりました。

昨年度は、作品展示を中心に感性豊かな学生達が科や学年を越えて、飲食、オリジナルグッズの販売と、様々なイベントを催し、来場者を楽しませていました。数ある中からイベント優秀賞として「あやめ賞」を、VD科2年生による飲食・オリジナルグッズ販売「不三家」キャラクターカプセル「Let's MARUNOIKE餃子」の3グループが合同で受賞しました。

各科、日頃の授業で製作した数々の作品や、イベントで張り切っている学生達と触れ合える山脇展へ、ぜひ、お越し下さい。お待ちしております。

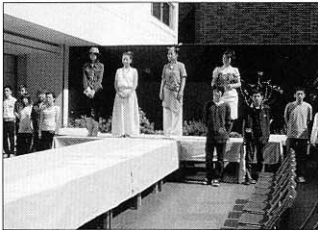
●卒業進級制作展 平成18年2月18日(土)～19日(日)



ID科 玄関の飾り付けを終えて



DD科 デジ
カバ ッ
シ ョ ッ
プ



JA科 ジュエリーショー



VD科 不三家

第34回 専門学校美術展

平成17年2月20日～26日 東京都美術館にて

毎年開催される専門学校美術展に本学院も昨年度より参加いたしました。

この美術展は、都内12の美術系専門学校が集まり、各学校を代表する優秀な作品が展示されます。各校、力作揃いで、互いに良きライバルとして意識しあっているように感じられました。本学院は、卒業制作を中心に展示をしました。

VD科は、イラストや大型ポスター・本の装丁を、ID科では、デザイナーズチェア1/5模型や、実制作した椅子・プレゼンテーションを、JA科では、進級制作のネックレスを、そして最後の展示となったDD科は映像やwebなど、各科を象徴する大作品を展示いたしました。

また今年度の卒業制作展も、学院のギャラリー1と東京都美術館の2会場での展示となります。是非、両会場へ足をお運び下さい。

●専門学校美術展 平成18年2月ほぼ同日程の予定

学内会員 神山美奈子

講師・職員移動報告

●退職された先生

デジタルデザイン科

清 勝仁先生

関根聖二先生

山口 武先生

島津克代子先生

インテリアデザイン科

稲垣 博先生

職員

川又葉子先生

デジタル編集・DCG実習

Webデザイン

企画演習

ブランニング

ディスプレイデザイン

デジタルデザイン科助手

長い間ご指導ありがとうございました。

千草会より

●災害地へのお見舞い

昨年の日本列島は、たび重なる災害に見舞われ、大変でした。千草会から、皆様の気持ちとして、新潟中越地震に3万円、兵庫県(豊岡)水没地に2万円、僅かですが、日本赤十字社を通じて寄付させて頂きました。被災地の会員の方々には、充分お体に気をつけて、お元気で頑張ってください。

●アクセス JR総武線

地下鉄 東京メトロ(有楽町線・南北線)

都営地下鉄(新宿線)

各線 市ヶ谷駅 下車

地下から学院へは「A2」出口が便利です。

発行 山脇美術専門学校同窓会

〒102・0074

東京都千代田区九段南4・8・21

電話 03・3264・4020